

山で食べる弁当は格別！



山県市の間伐作業現場にて

ぞまっぴ



新しき仙人たちの羅針盤

第 2 号

NPO 法人 山の社 学会

〒501-3744 美濃市段町 116-1

TEL & FAX 0575-33-1189

URL: <http://www.somanomori.or.jp/>
e-mail: info@somanomori.or.jp



大人になつたらなりたいもの

岐阜県立森林文化アカデミー 助教授

菊地與志也

緑が眩しい季節、もう少しで衣替え、そして夏が来る。今年の誕生日で40才を迎えた。(いつも、若い、若いといわれていたものの、岐阜にきてから、なぜか、いきなり白髪が目立つようになりました。)「大人になつたらなりたいもの」某生命保険が毎年、子供の日の頃に小学生等の26万人からの調査をまとめている男子の第1位は「学者・博士」。前年度の第8位からランクアップした。田中耕一さんのノーベル賞受賞などの影響が大きいのと思われる。私も仕事柄、博士号をもっているのだんとなくうれしいものがある。田中耕一さんは我々、サラリーマン研究者の、だ！(私の家族は、私が何の仕事をしているか、よく知らないが、

田中耕一さんのことはよく知っている。)その次は、サッカー選手、3年連続で1位であった野球選手は第3位となっている。もちろん、林業は第5位までに入っていない。(第5位は大工さん)林業は第何位くらいに入っているのか、はたして、そういった職業があることを小学生が知っているのか?機会があれば一度、きいてみたい。ちなみに、女子は、食べ物屋さん、看護婦さん、保母さん、花屋さん、飼育係・ペット屋さんで、もちろん、林業はない。

ところで、林業界で子供でもわかりやすく、大工さんに相当するような良い呼び名はないのかなあと思う。また、テレビやマンガで林業を取り上げてくれたらとも思う。私の子供も囲碁にはまっているが、これもマンガの影響である。SMAPの木村拓哉さんが主演したテレビドラマの影響で航空会社や関連会社が大学生の就職ランキングの上位となるなど、テレビや世論の動向は大きい。日本の林業が大変だといって久しい。じゃあ、そういうことをよく知っている人がたくさんいるかというところでもない。イラク戦争もいつの間にか始まり、そして、終わり、タマちゃん、白装束はどこにいったという類で毎日が過ぎていく。マスコミから流される情報は人々が瞬時に共有し、めまぐるしいほど、忘れさられるのもはやい。(イラク戦争もタマちゃんも、

日本の林業も同じ並びなのかな。

でも確実に山に人はきている。山火事跡地の再生ボランティアでも一般の方々の熱意を感じる。杉の杜 学舎のメンバーと話していると、営林署の現場で働いていた楽しい思い出がたくさん蘇ってくる。しかしながらみんなが、みんな理想どおりに行くわけではなく、このご時世、きれいごとだけでは通用しない。山仕事だけでは、なかなか食べていけず「そろばん」をたたくともっと実入りの良い仕事もたくさんある（これがいわゆる「大人」の考え方なのか）期待と不安が混在する中、杉の杜 学舎は設立され、現在、山火事再生活動、森林整備調査、環境教育など様々な活動を行っている。私も会員の一人として参画しているが、私の杉の杜 学舎での活動は、「そんな大人」になれない相反する思考の一面や憧れなのかもしれない。日本の森林は杉の杜 学舎の仲間や森林を愛する人たちの熱い想いをどこまで受け入れていくことができるのだろうか。海外ではNPOが企業や経済の成長のカギを握っているともいわれる。日本でもNPOに対する支援や理解は少しずつであるが、浸透してきており、美濃市や岐阜県内でも支援や活動の場が増えてきている。

そういえば子供の頃、大人になったら何になりたかったのか、全くおぼえていない。大人になったらなりたいたいの、「山で働く人」という日がくることを切に願っている。

山仕事日記

今、各務原市で秋に植栽が予定されている山火事跡地の伐採作業と整地作業をしています。森林ボランティアの方々を受け入れながら山火事跡地の再生作業を行うという試みもしています。すでに、消防学校の新任研修や各務原市立鵜沼中学校の1年生の野外教育活動の一環として、作業ボランティアを受け入れました。できるだけ多くの人が緑の再生活動に関わりを持つことで森林に関心を持ってもらい、山への感謝の気持ちが芽生えれば良いなと思っています。



消防学校学生の体験実習で
焼損木を伐採（各務原市にて）

ところで、今作業をしているエリアは、アカマツを中心とした里山です。山火事前になら数以上のアカマツが枯れて枯れていたようです。今回の山火事では、かなり広範囲に飛び火していますが、飛び火した現場の多く

が枯れて枯れた、放置されたアカマツ林です。枯れたアカマツは火が飛び火しやすいらしく、枯れたまま放置するのは防災上も問題ありそうです。

作業現場は、直径15センチ程度、樹高が10メートル前後の細いアカマツが林立しています。それでも、年輪を数えると40年から50年あります。昔は落ち葉や薪などを採取した典型的な里山だったに違いありませんが、昭和30年代の燃料革命と高度経済成長で次第に人から見向きもされなくなり放置されたのでしょうか。樹勢が衰えはじめたところに松くい虫にとどめを刺されたようです。このように枯れた無残な姿をさらしているアカマツの林はどこでも見られる風景になってしまいました。

今回の山火事は、見方を変えれば自然の摂理にそった災害かも知れませんが、枯れたままの木の集団は自然の状態から言えば普通の状態ではありません。山火事は、枯れたアカマツ林に、ある種の自然治癒力が働いたと考えるのが正しいのかも知れません。そういう面では、昨年中濃地区の雪害も、自然治癒力による人工林の間伐だったと考えることができるのでしょうか。人間は、自然に大きく逆らうことは出来ませんが、自然の摂理に沿って自然と共存したり、自然を手助けしたり、自然から恩恵をいただくことはできるのではないかと考えたりしています。

（杉の杜 学舎 鈴木章）

やまちゃん の 気まぐれ指数 100 センチ

会員のみなさん、こんにちは。山もすっかり新緑の季節となりました。というわけで、今回は前号とテーマを変えます。なにせ「きまぐれ」なので(笑)それで今回は、新緑の季節に合わせて、やまちゃんの山歩きお勧めスポットを紹介します。

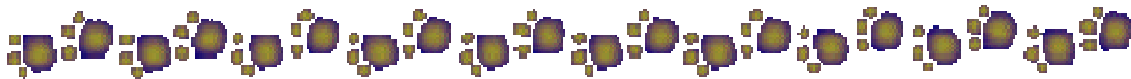
新緑といえば、特に落葉広葉樹が目につきます。その中でもぼくが好きなのはブナの木です。ブナの森はなぜか、歩いていて非常に気持ちが良い感じがします。豊富な水を蓄えている森というイメージがあるせいでしょうか。岐阜県にも長良川源流となっている大日ヶ岳の辺りなど多くのブナの森があります。

そんな中で、今回紹介するのは岐阜県坂内村の山奥にある夜叉が池への山歩きです。登山道にはブナの原生林も多く、新緑の山歩きにはもってこいではないでしょうか。確か、五月下旬頃、山開きされるはずですが、この夜叉が池は岐阜県と福井県との県境の標高千メートル程に位置した山の上にある池です。竜神夜叉姫伝説が残り、泉鏡花の戯曲で有名になった神秘性を秘めた所でもあります。登山道の入口までは車で行けますし、登山道も片道二時間ぐらいで池まで行くことができます。最初と最後の方が少々、山歩きのきつい所はありますが、途中は割と高低差の少ない道なので、広葉樹の新緑や、時々湧き水を味わいながら歩けば、楽しい山歩きとなるでしょう。幽玄の渾や夜叉壁といった見所もあります。

僕はこれまで三回ほど訪れていますが、飽きがこないんですね。おとし森林文化アカデミーの一年生の秋に同級生たちを連れて、キャンプを兼ねて行ったのですが、次の日、雨に降られて登れなかった苦しい思い出があります。今年なんとか行ければなと思っています。

みなさんも新緑の季節、山を歩いてみませんか。気持ちいいですよ。また、お勧めスポットなどあれば、逆に教えてください。それではまた。

(袖の杜 学舎 山中 亘)



ちよっとだけモノ自慢

山仕事の道具



いきなりチェーンソーです。私・若月の愛機の一つです。知人から譲ってもらった旧型のコマツゼノアG361です。(カバーが交換されているかもしれないので、正式な型かどうかわかりません。)「エンジン調子いいよ」と言われて買ったものですが、本当に一発でかかります。ボディは武骨ですが、手頃な大きさなので重宝しています。

このところずっと山火事跡地で使っているのですが、だいぶ煤けてますが、エアクリナーの掃除さえしっかりしてやればいつも変わらず一発始動です。どんな道具も、相性と愛情が大事な。

(袖の杜 学舎 若月 亨)

杣の杜倶楽部通信

五月十七日(土)にはじめての杣の杜倶楽部の活動、小倉山倶楽部を美濃市小倉公園で行いました。当日は晴天に恵まれ、十七名の方に参加いただき、スタッフ六人と合せて整理伐で心地良い汗を流しました。

小倉公園は手入れが行き届かず藪となつていて林があり、その中には枯れてしまった木も立っています。この藪の枯れ木や混み過ぎている木のうち常緑樹をおもに切り、気持ち良い明るい林、落葉樹中心の四季の変化を楽しめる林、公園に来た方が散策したくなる林を創ろうと活動しています。慣れない作業できつという方もいらっしゃいましたが、のこぎりを使って木を一本一本切る毎に少しずつ林の中が明るくなり、活動の成果を感じていただくことができました。午後には自然観察会を実施し、小倉山を一回りしました。美濃市内に住んでいても小倉山の裏側まで入ったことはない方もいらして、いろいろな散策路があることや、意外に大きな木(胸の高さでの直径で1mぐらいでしょうか)があることなど、小倉山の新たな一面を発見していただきました。

小倉山倶楽部は今後も定期的に実施していきます。これからも多くの方に参加していただきたいと思っています。

(杣の杜学舎 小泉)



自然観察会



整理伐作業

次回活動のご案内

日時 6月21日(土)9時~15時(雨天の場合は28日(土)に延期)
場所 小倉公園事務所前にご集合ください。
内容 下草刈り、自然観察会
服装 作業できる長袖、長ズボン、滑りにくい靴、軍手
持ち物 弁当、飲み物、タオル、あれば鎌、ヘルメット
参加費 保険料等のためお一人500円お願いします。

問合せ、参加申込は小泉までお願いします。

Tel: 090-4189-9843

E-mail: taro-k@somanomori.or.jp(小泉)

第三回世界水フォーラムin滋賀

森林分科会に参加して

NPO法人 木の杜 学舎 代表理事

鈴木 章

去る三月に滋賀県で行われた第三回世界水フォーラムin滋賀の森林分科会に、岐阜県代表のパネラーとして参加してきました。

無知とは恐ろしいもので、県の農山村政策課から世界水フォーラムの森林分科会でパネラーとして参加してほしいとお話をいただいた時は、「私でお役に立てることならやりますよ。」と気楽な気持ちで引き受けてしまいました。後で格式ある国際会議だと聞いたのですが後の祭りでした。あまり構えずにありのままを話せばいいやということ当日を迎えました。

パネルディスカッションでは岐阜市・各務原市の林野火災跡地の緑の再生プロジェクトでNPOとして協働事業をしていること、ボランティアによる森林整備活動も森林整備の担い手として侮れないパワーがあることを報告しました。質疑応答でも我々の取り組みに対する質問も多く受けました。

また、他県のパネラーの方々と交流ができ、それぞれのフィールドでリーダーシップをとっている方々のご苦労や、共通の悩みも共有できました。このことは今後の活動のパワーとなってくれることでしょう。

これまでの活動（二〇〇三年二月～五月）

専任スタッフ三名の森林文化アカデミー卒業とともに、木の杜学舎も本格的に活動を開始しました。慌しいながらも、活気に満ちた今春の活動を振り返ります。

第三回「みんなの力で緑を」大作戦の準備作業・ボランティアへの技術指導（二～三月）

岐阜市・各務原市林野火災も、この四月五日で発生から丸一年経ちました。思わぬ災害が、様々な新しい動きを生み出してきました。

山火事跡地・県民協働「緑の再生プロジェクト」のメインイベント、「みんなの力で緑を」大作戦も三回目。約千人のボランティアが参加しての大植樹大会となりました。

木の杜学舎は今回も、イベント会場の歩道づくりや危険箇所チェックといった準備作業を行い、当日は専任スタッフが、ボランティアの方々への植樹の作業説明と技術指導を行いました。

第三回 世界水フォーラムin滋賀
分科会での活動事例報告（三月二十日）

近い将来に予測される水危機への様々な分野での対処を論議する国際会議、第三回「世界水フォーラム」が、京都・滋賀・大阪で開催されました。滋賀会場での「琵琶湖の総合保全のための行動主体の役割と連携」という分科会のサブセッション「森林と水」森林の役割と連携」で、海なし七県のうち岐阜県代表として、木の杜学舎代表理事の鈴木が事例報告を行いました。

このページの、鈴木による報告をご覧ください。

山県市の民有林での間伐作業受託（四～五月）

民有林での間伐作業を受託し、伐採作業を行いました。伐採した木は、ヘリコプターで集材されることになっています。

岐阜県消防学校の山火事跡地体験学習での技術指導（五月九日）

山火事跡地・県民協働「緑の再生プロジェクト」の一環として、消防学校学生に伐採と地拵えの技術指導を行いました。二時間ほどの実習でしたが、学生の皆さんの若さと団結力に圧倒されました。

（次ページにつづきます）

各務原市立鷺沼中学校一年生の森林環境
体験学習での技術指導

同じく「緑の再生プロジェクト」の一環として、百六十名以上の中学生に、伐採と地帯の技術指導を行いました。小雨混じりのあいにくの天候でしたが、皆、雨合羽を着たり傘を差したりしながら、作業を楽しんでいるようでした。



鷺沼中学校の森林環境体験学習

第一回 小倉山倶楽部（五月十七日）

「**杉の杜** 学舎の応援団「**杉の杜**倶楽部」の記念すべき最初の活動として、第一回小倉山倶楽部が、美濃市小倉公園の森で開催されました。会員の皆さん同士、そしてスタッフも交え、森を舞台にした交流の場として発展させていきたいと考えています。

詳細は、四ページの「**杉の杜**倶楽部通信」をご覧ください。

これからの活動予定

第二回 小倉山倶楽部

「**杉の杜**倶楽部通信」でもお知らせしていますように、六月二十一日（土）に第二回小倉山倶楽部の活動を、美濃市小倉公園にて行います。お近くの会員の方（もちろん遠方の方も）ぜひご参加ください。

第一回 山火事跡地 各務原市里山再生ボランティアでの技術指導

各務原市主催の「山火事跡地 里山再生ボランティア」が始まります。第一回は、各務原市十栄会ソフトボール部の皆さん約百人が、焼損木の伐採と地帯の作業を行います。杉の杜学舎は、ボランティアの受け入れ準備と、当日の技術指導を担当しています。

杉の杜学舎は、山火事跡地・県民協働緑の再生プロジェクト」の中での県民の代表組織として、「山火事跡地緑の再生委員会」担当者会議に加わっています。ボランティアによる再生活動の受け入れ準備や技術指導等に携わっていきます。

また、地元美濃市においても、小倉公園

の森をはじめとした地域の森林の整備を、市と市民の協働で進めていくための準備を進めています。



第3回「みんなの力で緑を」大作戦（岐阜市）にて
田中高行氏撮影

編集後記

五月。本当に一日のうちに山の色が深まっていくのがわかり、生命の力強さを感じる季節です。山火事跡地でも、真っ黒に焦げて立ち枯れた木々の根元から、萌芽が勢いよく吹き出し、森の復活の早さに驚かされます。これまで森と触れ合う機会がなかった人たちがボランティアとしてこの森を訪れ、その生命力を実感する。それが、森をよくしていくという世論を醸成するための、一つの種子になるに違いないと信じています。 若